

三原発！商店街のにぎわい創出に向けた、プログラミング教育の仕組みづくり実証

別紙

協議会等名称(代表団体名)	MIHARAプログラミング教育推進協議会(代表団体:一般社団法人RoFReC)
実施地域	広島県三原市
実証概要	MIHARAプログラミング教育推進協議会は、三原を「世界のIT・スタートアップ集積地域」とするために、プログラミング教育のメンター育成事業を行う。三原は、小早川隆景公の時代の城下町、重化学工業の工場地帯として栄えたが、本事業によって、第四次産業革命時代のMIHARAをつくる歴史的一步を踏み出す。すなわち、サービス、流通、小売り、製造、建設等あらゆる分野や事業領域で、IoTやICT等の新規事業が次々と生まれる世界のMIHARAビジョンに向けた仕組みづくりの実証を行う。本年度は、新たなサービスを創出するために、コミュニケーションロボットを三原市内の交通機関や市役所や店舗などに設置するという具体的な目標設定に向かって、メンター育成の実証を行う。

MIHARAプログラミング教育推進協議会は、三原を「世界のIT・スタートアップ集積地域」として生まれ変わらせる最初の一歩



城下町(小早川隆景公)



企業城下町(重厚長大)

IT・スタートアップ 集積地域 (2018～)

本年度の具体的実施計画

プログラミング教育のすそ野を地域に広げ、継続的な仕組みづくりを行うために、メンターを育成する。

メンターの地域コミュニティ形成

- ①街中にコミュニケーションロボットを設置することによる、三原市内の民間事業者や市民団体の参画
 - ②大学生メンターの参画
 - ③広島県下の民間事業者のメンターの参画
- ※大人も子どもも参加しやすい学びの環境を整備することで、地域コミュニティ形成を促進する

次年度以降の自走に向けた検証項目

- ①新たなサービスを創出するコミュニケーションロボットを、ホテルや飲食店に設置することで、スポンサーを募ること(資金面における自走の仕組みづくりの検証)。
- ②本年度に育成されたメンターが、民間のプログラミング教室、学校現場、放課後児童クラブ等で、子どもたちにプログラミングを指導すること。
- ③三原市長プログラミング賞(仮称)を優秀チームに授与することで、生徒の推薦入試や履歴書記載等の、地域のインセンティブが高まること。
- ④未来のIT人材の育成に向けて、民間事業者との連携可能性を検証すること。

※以上は実証事業における検証項目



メンター&小・中学生が
プログラミングを学び合う

学びの成果をカタチにして
周知・披露する

ロボット設置現場の仕
事や働き方を学ぶ

(ロボット設置イメージ)